

酷暑の夏も終わり、朝夕はめっきり涼しくなってきました。
会員の皆様には、お元気のことと思います。もう少し早くこのニュースを出そうと思っておりましたが今になってしまいました。

令和6年（2024）年度の取り組みについて、経過報告させていただきます。

令和6年度総会



5月26日（日）10時30分より、西駅交流センターにおいて、総会を実施しました。25名の出席と22名の委任状を得て、すべての議案が承認・可決されました。

総会后、1年間の取り組みを映像も使って紹介し参加者に見ていただきました。



議案項目抜粋

第1号議案 2023（令和5）年度事業報告

1. 児童・生徒への日本語・学習支援
 - 1) 舞鶴市との委託契約による「日本語・学習・生活」支援
 - 2) 綾部市からの、外国籍生徒への学習支援依頼、6年度からは委託事業として
 - 3) 委託事業ではない、会として自主的な、児童・生徒への学習支援
 - 4) これまで支援してきた生徒たちの新たな旅立ち
2. 外国籍市民や外国籍技能実習生への日本語学習支援
 - 1) カーサービス工場で働く外国籍技能実習生への支援
 - 2) ベトナム技能実習生への教会での支援
 - 3) ホテル従業員への学習支援

3. その他の活動

- 1) 学習支援教室（聖母訪問会）の清掃及び周辺の草刈り・老木伐採
- 2) 外国籍技能実習生との交流会
- 3) 日本文化や外国料理の体験交流会
- 4) ニュース「つなぐ」の発行・ホームページの更新
- 5) 総務会（理事会）開催

4. まとめに代えて

第2号議案 2023年度決算報告・会計監査報告

収入 1, 580, 659 支出 1, 431, 038
残高 149, 621（次年度へ繰越）

第3号議案 2024年度事業計画案

1. 日本語を母語としない青少年・市民への日本語及び教育支援
 - 1) 舞鶴市、綾部市との「児童生徒日本語学習支援事業委託業務」
 - 2) 義務教育終了後の生徒（高校、専門学校）の支援
 - 3) 技能実習生などへの日本語学習支援
 - 4) 支援要請者の目的に対応できるカリキュラムの研究
2. 外国籍市民との交流を深める取り組み
 - 1) 支援児童・生徒、青少年やその家族との交流
 - 2) 文化的な取り組みを通しての交流
3. 通訳、翻訳、法律相談、他団体との連携した取り組み
4. 日本語支援教室の清掃、及び周辺の草刈り
5. ニュース「つなぐ」の発行、ホームページの更新
6. 会員の充実
7. 総務会開催

第4号議案 2024年度予算案

収入 1, 335, 621 支出 1, 335, 621
残高 0

.....

総会には、この春、大阪の大学に進学したアリーナさんも参加し、新たに始めた学生生活について話してくれました。

また、本年度から委託事業契約で支援を始めた綾部市の中学生姉妹（アシリさん・チェリーさん）や舞鶴市で私達の支援の下に毎週土曜日、聖母訪問会学習会に熱心に参加している廣田3兄妹も参加してくれました。総会の後の交流会では、この生徒達から自己紹介を含めて、日本での生活や学習について感想や意見を発表してもらいました。

総会に出席された会員さんにとっては、初めて出会われる支援生徒との触れ合いもあり、良い機会になったのではないかと思います。

ちなみに、この総会の様子は翌日の読売新聞の記事にもなり、多くの市民に知っていただくこととなりました。



↑アリーナさん（関西外国語大学1年）



↑アシリさん（中学2年生）

今年度の取り組み

1. 舞鶴市内での外国籍生徒への学習支援

1) 支援2年目の小学校2年生児童（フィリピン籍児童）A男君

入学当時は、個別指導・支援教室に来て、すぐに遊びたがたり、学習とは関係ない話をして、ひらかな・カタカナ・漢字や算数等の学習に、なかなか集中できませんでした。しかし、担任の先生達と連携しながら粘り強く関わる中で、半年ほどたつと少しずつ集中できるようになり、こちらの指示や指導内容を受け入れて学習でき始めました。

2年目の今年は、国語（日本語）の学習は、教室で学習している内容に、殆ど近づいてきています。算数も学年の学習が理解できるようになり、9月の後半から「九九」計算に入りましたが、興味深く覚えようとしています。外国籍の児童・生徒で一番困難な学習が、算数・数学の計算・理解です。この基本となるのが、小学校で学習する「九九」なのです。

A男君はクラスの仲間との関係も良く、教室から私達との個別学習教室に向かうときには「行ってらっしゃい」と見送られ、教室に帰ってくると「お帰り」と、温かく迎えられています。クラスの児童たちは、日本語が十分理解できないので個別に日本語や教科学習を私達から受けていることを、担任の先生方の指導で、よく理解しています。外国籍児童が教室から離れて個別に学習するとき、このようにクラスの仲間たちの理解と支援が大切です。

クラスの児童たちも私達を見つけると、「あっ、A男君の日本語の先生や！〇〇先生、お早う！」と、嬉しそうに明るく迎えてくれます。こんな優しい仲間とともに学習・生活できるA男君は、いつも楽しそうで、元気に学習に参加しています。

2) 小学校1年生女兒（ベトナム籍）

今年の5月末から支援に入りました。日本語はよく話せますが、母国語はうまく話せないようで、反対に両親はベトナム籍で日本語がまだうまく話せないとのこと。そのため、この児童と両親は家庭でのコミュニケーションは十分に取れにくい状況もあるようで、学校生活や学習にも順応できにくい面が見られます。それだけに、学校の先生方と密に連絡を取りながら、ゆっくりと時間をかけて指導・支援が成立し、日本での生活や学習に少しでも早く適応できるように支援をしていきたいと思っています。

3) ベトナム籍の1年生男児への新たな支援

9月より、新たにベトナム籍1年生男児の支援・指導が要請されてきました。両親共にベトナム籍の方です。「ひらかな」から始めたばかりです。2人の支援員が毎週2日間(1日2時間、週4時間)支援・指導に入っています。

2. 綾部市内の中学校での支援

○フィリピン籍姉妹への学習支援・指導

今年の2月から、綾部市教育委員会の要請により、支援・指導を当該学校で行ってきました。この4月からは、舞鶴市と同じように、委託契約事業として取り組んでいます。毎週3日間(1人につき4時間)の支援を、4人の支援員で、国語(日本語指導を含む)と数学を中心に指導・支援しています。1年の妹も2年の姉も一生懸命に頑張る明るい姉妹です。

昨年の12月に来日した時には、日本語の会話が全くできなかった姉妹ですが、今年の2月から綾部市の中学校に登校して、学校生活を送るようになってからは、急速に日本語の日常会話は上達しました。特に4月からの委託契約により、登校して下校するまで、全て日本語の会話なので、教科学習は理解できなくても日常会話は驚くほど上達してきています。学校の先生達もクラスの仲間たちも驚くほどです。それは当然です。まったく母国語が使えず日本語しか使えない環境にほとんど1日中置かれ、そして、会社とは違って、6時間の学習や休憩時間に日本語で聞きとり話すわけですから、本人たちも必死です。そして何よりも若いです。吸収力が早く、一気に会話力は上達し、私達同様の日本語が次第に話せるようになります。しかし、まだ完全な日本語ではありません。そんな時は、その場で、「その日本語は正しくはこういうんだよ」と、きちんと訂正し、繰り返し言い直させることが大切です。

たとえば、問題の解答を見せに来た時に、「先生、これ!」と言う。その時すぐに、「ちょっと待ちなさい。先生にチェックして欲しいのなら、先生、できたので見てください、と言うんだよ」と指摘し、「言ってごらん」と何度か言わせます。発音が間違っていたら何度も言い直させて、できたら「よくできたね」と評価します。そして、支援が終わったら、「先生、有難うございます」とも言うマナーも教えていきます。このような一つ一つの相手に対応する言葉を教えていくことが、学校や社会での豊かなコミュニケーションにつながり、大切です。

この二人に限らず日本での在住が短い外国籍従業員たちも、「僕は……」「私は……」と言えず、自分の名前で「ケンはね、……」「マリーはね、……」と言い出すことがよくあります。そこで「幼児とか低学年の子供ならそういう言葉を使うけど、小学生・中学生や大人になったらすると、自分のことを名前では言わないよ。『私は……』とか、『僕は……』とかで始めるんだよ」と教えます。

さて、このように二人の姉妹の日常会話は予想通り半年余りで上達してきました。しかし以前にもニュースで述べましたように、教科学習は全く別です。国語は、一応、小学校1年生で学習する「ひらかな」、「カタカナ」、「漢字(80字)」の学習を終えて、2年生段階に入っていますし、彼女たちも一生懸命頑張っています。しかし、1年先、2年先の、義務教育を終えた後の進路選択を考えるなら、当然、今学習している内容も同時並行して指導・支援していく必要があります。理解は大変ですが、中学校で学習する国語や数学を並行して指導しています。

教科学習で出てくる専門的用語の読みとその理解が大変で、本人たちも苦労しています。

たとえば、姉が学習している2年生の一次関数を見ると、直ぐに次のような用語が出てきま

す。

一次関数 $y = 2x + 3$ (一般式 $y = ax + b$) で
a = 2 ……変化の割合 (傾き)、y の増加分 / x の増加分
b = 3 ……切片

そもそも一次関数とは何かということが全く理解できません。最近、学校では教科書はほとんど使わず、タブレットを使って学習することが多くなっています。つまり以前のように、教科書を読んで大切な個所にアンダーラインを引かせたり加筆させたりして理解させるのではなく、タブレットを使っての学習が主流となってきています。ですから、以前の様に教科書の説明やグラフ・表を見て、説明を聞いて、大切な所にアンダーラインを引いて、何度も読み直して、理解していく学習方法とは大きく違ってきています。

この学習方法だと、特に日本語が理解できない彼女たちにとっては上記のような定義や説明はほとんど理解できず、結果として下記のような問題は全く解けません。

問 次の条件をみたす一次関数の式を求めなさい。

(1) グラフの傾きが -3 で、点 $(1, 2)$ を通る。

(2) グラフが直線 $y = 2x + 5$ に並行で、点 $(2, 0)$ を通る。

* 1. まず、この日本語が読めない。

* 2. (1) の問の場合、代入して方程式が作れない。 $2x$ の x に 1 を代入する方法が分からない。代入という意味と方法が分からない。

* 3. たとえ式を作れても、方程式は x や y について解くものだと思っているから、
 $2 = -3 \times 1 + b$ という式で、 b についての式を解くことができない。

中学1年・2年の学習内容に理解できないことが多い彼女たちですが、私達は、姉妹の登校する学校で週3日、聖母訪問会で毎週土曜日9時半より12時まで、そして、滝花副代表が「Sky pe」で姉妹それぞれに週2日ずつ、学習支援・指導を継続する中で、着実に学力をつけてきていることも事実です。

(滝花談「感心していること3つ。12月に日本に来て、激変の環境の中でも頑張っている姿。2つ目、バスケの部活を終えて帰宅後15分くらいで始める学習に、汗もかき疲れてもいるだろうに、1日も休まず参加してくること。3つ目、それも約束した開始時刻の必ず前後1分以内にはSky peを発信してくること。この真剣さに打たれています。)」

ただ、この二人が中学校を卒業して高校入試に向かうまでには時間が十分ではありません。進路の選択は、本人・保護者と学校がしっかり相談して決めていくことが基本ですが、何とか

力になればと私達も考え、支援・指導に取り組んでいます。



↑ (学校の特別教室で、個別指導を受けている姉妹) ↑

3. 聖母訪問会での土曜日の学習支援（毎週9：30～12：00）

令和元年に私達の京都北部サポートネットを創設して以来、カトリック教会の舞鶴女子修道会「聖母訪問会」のご協力により、教会内の学習教室を借りて、6年間、外国籍の小学生から高校生まで、日本語学習を含む教科学習支援に取り組んできています。

支援は、退職、現職教員が毎週土曜日に都合をつけて、3～5名が担当し、現在4名の中学生と1名の高校生の学習指導に2時間半当たっています。それぞれの生徒の学習のレベルが異なり、一人の生徒に一人の指導者がつく必要があります。さらに、参加している生徒の中には教科学習で出てくる専門用語の理解が困難であったり、日本語の意味が理解できない生徒もいるため、個別対応が必要で、グループを一人の指導者で教える塾のようなわけにはいきません。

このため、どうしても多くの指導者が必要です。指導者も事前にいろいろと時間を調整して、参加してくれている中で、この学習会が成立しています。



←（聖母訪問会で、学習して専門学校に通っている先輩が久しぶりに来てくれ、母国語で色々と相談に乗ってくれて、楽しそうに話している場です。）

.....

更に、ネット会員の大きな支援も頂いています。それは、別の記事にありますように、この学習教室は、教会内の広大な敷地の一角にあり、教室の周辺は野菜畑や柿や果物等の樹木が生えた敷地で、雑草が生え茂ります。そこで、入り口から教室までの

通路の清掃と教会へのお礼を含めて、年に3～4回の草刈りと樹木の伐採、除去を行っています。その時、多くの会員さんに協力していただき、聖母訪問会のシスターさん達からも深く感謝されています。

私達はこの聖母訪問会修道院の教室を無料でお借りしているおかげで、毎週土曜日や平日でも生徒たちの学習支援を行うことができています。



（聖母訪問会での学習）↑



↑（この日は都合により交流センターを利用しました）

眞下賢一顧問（理事）、7月にご逝去

京都北部国際支援ネットを立ち上げた時から中心的存在で、いつも暖かく私達の活動を見守り支援いただいていた眞下賢一理事さんが、2か月前の7月に逝去されました。以前より大きな病気を何度かされて入退院を繰り返されていることは、眞下理事さんから直接お聞きしていましたが、その都度、克服されて私達の活動を含めて、本当に多くの団体の中心になって社会的活動を精力的に行ってこられました。

下の写真は、ついこの間、5月末の総会で閉会の挨拶を頂いたときの眞下理事さんの元気な



ご様子です。いつも優しく明るく笑顔で、私達の活動をけん引し、様々な知恵とアドバイスを頂きました。

今の英会話教室を提唱し、始められたのも実は眞下さんです。眞下さんは本当にいろんな活動を作り育てるのがお上手で、作った後、いつまでも自分が中心になるのではなく、ずっと誰かに渡して次の中心者を育て、見守り支援をされる本当に素晴らしい方でした。このような先輩、仲間を私達は失い、何と寂しいことでしょうか。

しかし、ご葬儀の時に、長男さんが話しておられました。「父は、きっとあの世でもまた、新しい団体を作って楽しくやっていることでしょう」と。本当に健やかなお顔をしておられました。

心からお礼を申し上げるとともに、その志を受け継ぎ、今の私達の活動を少しでも豊かに継続し、外国籍児童・生徒の学力と進路、自立に向けて、また、外国籍市民との交流を含め、共生社会のへ前進に向かって、みんなで頑張りたいと思います。

英会話教室（眞下理事が作られた教室）、1クラスが2クラスになり、既に10数年

この京都北部国際支援ネットが令和元年に新たに結成される前まで、私達も所属していたNPO 法人で初めて英会話教室を提案され、開く中心になられたのは眞下理事でした。眞下さんは昔から子供たちの早期の英会話教室の開催の大切さを願っておられました。しかし、なかなか創設が難しかったのでまず大人向けの英会話教室を創設されました。しかし、多くの団体の代表を務めておられたため、中心として講師をすることが難しくなったため、現在のネット代表の後野の方が依頼を受け、それ以後10数年間担当してきました。1クラスが2クラスとなり、現在火曜日の午前と水曜日の夜の2日、各1時間半の講座を開催しています。それぞれのクラスに常時7～8名の市民の方が熱心に参加されています。

この教室には、月に何回かネイティブが参加してくれて、私達の授業を豊かにしてくれています。火曜日の午前中のクラスには、末日聖徒イエス・キリスト教会(The CHURCH OF JESUS CHRIST OF LATTER-DAY SAINTS)日本神戸伝道部の宣教師の青年が月2回程参加してくれて、私達の英会話をサポートしてくれています。

水曜日の夜のクラスは、私のアメリカ人の友人が参加して、またサポートしてくれています。

このように、眞下理事が提起されて発足した英会話教室もずっと継続していて、そこで学習された人たちが、英検チャレンジされたり、合格されたり、また地域に住んでおられる外国籍市民と日常的に交流しあい、災害時を含む困難な時に日本語の十分通じない外国籍市民をサポ

ートしようとされています。これも、亡くなられた眞下理事の大きな功績で、引き続きこの教室は大切にしていきたいと思っています。



←

↑

(9月の火曜日2人の宣教師が
参加してくれた英会話教室)

余談ですが、英会話教室で講師の後野が農業をされていて9月が稲刈りの季節だということ、宣教師の二人からぜひボランティアで参加させてほしいと言われた。半信半疑だったが、前日電話があり、本当に来てくれて大助かり。稲を刈った後に小さな蛇を見つけて、捕まえて尻尾をもってぶら下げ楽しそうにしている青年宣教師。作業しながら話していると、ネクタイを締めて宣教師の活動をしている時の感じとは違って、本当に普通の高校生か大学生という好青年。



←

(小さな蛇の尻尾を
ぶら下げる青年宣教師)

→

(手伝いに来て
くれた2人の
青年宣教師)



聖母訪問会の学習教室の清掃と周辺の協会内の草刈り、樹木の伐採・除去

年に3～4回開催しています大きな行事ですが、本当に多くの皆さんにお世話になりました。総会前には学習教室の周辺の雑草が相当生い茂って来ていたので急遽5月18日（土）にお願いしました。更にその3ヶ月後の8月18日（日）にも、やはり同じように雑草が生い



茂り、教室の掃除も必要となってきましたので、会員の皆さんに依頼をかけて草刈り・雑木の処理、教室の清掃を暑い中お願いしました。忙しい中でしたが、多くの会員の皆さんや学習生徒の協力を得て、写真のようにすっかりきれいになりました。有難うございました。

そして、いつも大型の廃棄トレーラーを運転してきていただいて、雑草類や雑木を持って帰って処理していただく井木商事の井木さんにも本当にお世話になっております。

また、2回目には学習生徒の保護者である福田さんには前日に除草機



当に多くの皆さんのご協力を頂きました。

大切なお金を寄付していただきました

私達の生活が日に日に経済的に厳しくなる中で、お二人の方から、京都北部国際支援ネットに対して寄付金を頂きました。

お一人は、私達が生徒の学習支援教室で使わせて頂いている舞鶴女子修道会「聖母訪問会」のシスターの原田従子さんからです。「ネットの活動に使って下さい」と、この6月に1万円ものお金を寄付していただきました。本当にありがとうございました。

もうお一人は、京都市在住で私達ネット会員のN・Kさんから1万円の寄付を頂きました。Nさんは、自分で会社を経営しておられ、多くの団体の中で活動をされています。子供さんも成長され、それぞれ社会的自立を遂げられている中で、Nさんは受け取っている年金の一部を経済的に楽ではない、いくつかの団体に毎年寄付されているそうです。私達の団体も基本的に会費だけで運営している団体で、決して経済的に豊かでも楽でもありません。総会提出の毎年の決算報告書を見られて、寄付の申し出があり、喜んでお受けすることとなりました。

年会費一人3千円、家族会員を含めて約40名の会員の皆様から頂く年会費11万円を基礎として活動している団体にとって、お二人から頂きました2万円は7名分の会費に近く、子供たちの教材購入や、必要な教材、事務書類の印刷等の必要経費にとって大きな救いとなります。

原田従子様、N・K様、本当にありがとうございました。大切にに使わせていただきます。

外国籍市民、従業員への日本語支援

①以前からニュースで報告しておりますように、小・中・高校生たちへの学習支援だけでなく、成人への支援も引き続き行っています。

その一つは、西舞鶴市内のホテルや店で働くフィリッピン籍の20代の青年への日本語学習支援です。彼は、今、2つの職場でパートタイム雇用として働いていますが、いずれ、より安定した正規の労働者として働きたいと考え、毎週月曜日に1時間～1時間半、私たちの支援で、働いているホテルの1室を借りて学習しています。

疲れていたり時間が少なかったりする中で、学生ほど順調に学習は進みませんが、やめようとはせず頑張っています。彼が続けたいと思う限り支援を続けたいと思っています。

②大嶋カーサービスで働いているフィリッピン籍の従業員と、カンボジアから技術研修生として3年間の契約で来ている青年も、毎週木曜日の勤務が終わった6時から7時まで、疲れている時も頑張って学習に参加しています。何よりも職場の方々の支援が素晴らしく、たびたび学習部屋に来て応援していただきます。

そして1年の学習が過ぎた今、彼らは私達支援に入っている3名にいろんな話を楽しそうに面白そうに話しかけてきます。先日は「長」という漢字を学習した時、その読み方に「チョウ」があり、例として「支店長」（シテンチョウ）と呼ぶんだよ。この店にも支店長さんがおられるね。」と教えると、直ぐに隣のフィリッピン籍の青年が「先生、この子ね、支店長（男性）が大好きなんだよ。」と冷やかしました。冷やかされたカンボジア籍の青年（結婚していて、妻と幼児を母国に置いてきている）は、顔を赤らめて、恥ずかしそうに、嬉しそうに笑っていました。

「なんで店長が好きなの？」と聞くと、彼は「店長はやさしい」と、嬉しそうに答えてくれました。それを聞いて、私達は、彼ら外国籍従業員や技術研修生は、店長さんや会社の従業員の皆さんから本当に大切にされていて、良い職場で働いていていいなと思い、ますます頑張って日本語をしっかりと教えていきたいなと感じました。



←（この中の一人には、
奥さんも、子供さんもおられます。）
（カンボジアの母国語は
クメール語で私たちは
全くわかりません）→



（事務所の2階の会議室を使って学習しています）

（文責：後野、滝花）